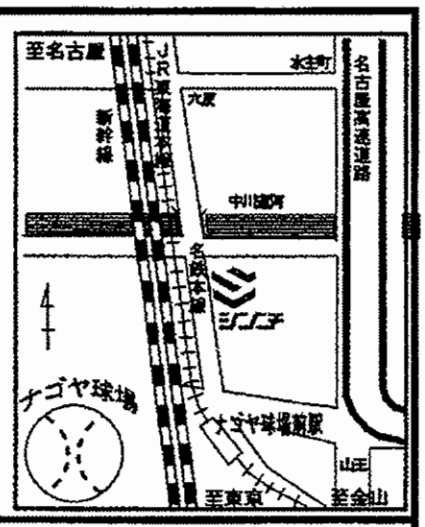
補償コンサルタント情報コミュニケーション誌

株式会社 新日 補償ミニコミ

発行日　3ヶ月毎1回
発行所　㈱ 新日　名古屋市中川区山王一丁目8番28号
TEL052－331－5356　FAX052－331－4010
編集者　秋山 学



マスコミによる公共事業への批判

最近、テレビ、新聞、週刊誌等マスコミで財政構造改革が取り上げられ、公共事業への批判が集中しています。公共事業は財政危機の重大な原因の一つであるとして公共事業にブレーキをかける必要性、はたまた公共事業の不要をとなえる評論まで、干拓事業、農道、空港、ダム事業、港湾事業に関する特集記事がひんぱんに番組や紙面をにぎわしています。

マスコミの力は絶大であって、著名な評論家達が様々な実例を挙げ公共事業は無駄であるかのような解説をするとそれは非常な説得力を持ち、まさにそれは正論であるとし、納得させられるものであります。

ここで、この評論家達が仮りに反対の立場で同じように実例をあげ、公共事業の必要性を説いたと想定します。おそらく、我々一般人は公共事業の必要性を実感させられることとなるでしょう。

今、まさに一億総評論家の時代であります。売れっ子評論家がテレビ等マスコミで何かをとなえたとすると、大多数の人間がその評論家に協調し、自らも評論家の如き全く同じ意見を持つ評論家となってしまうわけです。

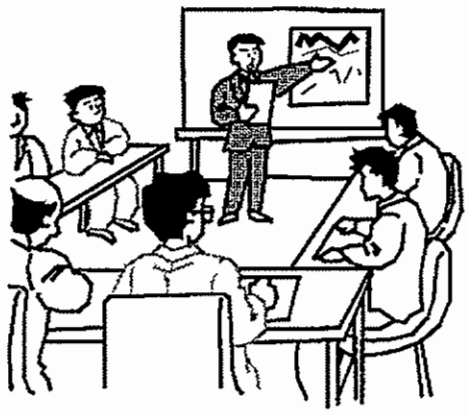
まさに世の中すべてマスコミに操られている感じさえも否定できません。

あのバブルたけなわの時代、その時点で土地価格が低下する、いわゆる土地神話の崩壊を誰がマスコミで予測したか、むしろ彼らがバブルをあおったのではなかったかと思います。

もろ手をあげて公共事業の拡大に同調することはないのかもしれませんが、私自身公共事業に携わって大きく恩恵を受け、家族の毎日の生活が安全に送ることができていることを考えれば、マスコミによる公共事業への批判は必ずしも心地よい印象を受けないとともに、今後、我々の業務は将来どうなっていくのかとの不安さえも覚えます。

（M・A）

人前で話す



先日来より都合3回、「消費税と補償」という題で100人、200人の方々の前で話をさせていただく機会が与えられました。人前で話をすることが、いかに難しいものであるかを実感させられた次第です。

前もって資料を準備し、話をする内容に関し、ここでジョークを入れ、ここで咳をしてというぐらいに一旦は下書きし練習までし、その場に望んだのですが、いざその場に立つと、動揺し気持ちが舞い上がってしまい、頭の中は真っ白の状態。自分が何を話しているのか、そして次に何を話すべきだったか分からなくなってしまい、反省の連続となったわけであります。

補償コンサルにあって時々、地元説明会等に参加させていただく機会があり、その際、我々はその会場の片隅で用地職員の方の説明を聞いていることなるわけですが、その際いつも用地職員の方々の話上手に感心されられます。天性なのか場慣れによるものなのか、とにかくうらやましく思います

つい先日、小学校時代の恩師と会い、このことを話たところ、毎日のように話をすることが商売の先生ですら小・中学生をはじめ父兄の前に立って満足に話をすることが出来たことは先生商売数十年の間といえども一度たりともなく、前もって話をしようとしていた内容の70～80％ができれば、上々で毎回毎回反省の日々だと慰められた次第です。

それにしても人前で話をさせていただく機会を与えられたことに感謝しています。前もって準備することにより、それまで何ら疑問に思ってなかったことの再認識、新たな発見等と非常に勉強となることに気づきました。こうした機会が再び与えられたなら、自分自身に満足がいくように充分準備をしてまた是非挑戦したいと考えています。

▲▲▲▲ 非木造建物積算の主な改正紹介 ▲▲▲▲

今年度より「非木造建物調査積算要領」が一部改正されました。実務上主な改正点は、

①基礎関係の統計値を、現行の延床面積から一階床面積を対象とすることに変更し、階層等による補正を考慮することとした。

②鉄骨関係の統計値については、延床面積を基本データとし、階高、階層等の補正を考慮することとした。

③RC、SRCのく体コンクリート量について、延面積を基準として統計値を導入した。

であり、どちらかという大差なく、積算業務に入ってから寸法等の矛盾に気がついて再度図面作成へ、いわば図面作成と積算業務のキャッチボールの頻繁が製図板時代に比較し、増加したといった欠点も発生しています。

製図板（ドラフター）派でパソコンやCADになかなか馴染めない年齢の人間側からすれば、技術者の能力と感情が表現できない、いわゆる温かみのないパソコンやCADによる図面の作成によって本当に業務の合理化が図られているのかと疑問を投げかけたい思いがします。

一時代の売れっ子であった製図板が部屋の隅に追いやられ、また荷物置き場となり、いわば窓際族の一員となった製図板の嘆きが私自身におきかえると身につまされる思いさえします。

製図板（ドラフター）の嘆き

新日補償調査部ではここ数年の間にパソコンが浸透し、ほぼ一人一台となり、図面もCADによる作成が主流となってきました。

数年前までは業務が輻輳してくると、図面作成のために製図板が足りなくなり、奪い合いとなることもあり、職員から強い購入要望もあった製図板が今やほとんど見向きもされない状態となってしまいました。

かつて製図板が売れっ子の時代、私の机から遠くにあった製図板が、ほぼ不要の状態となるといつの間にか私に近づいてきており、通行の邪魔と私から死角を作るといった役割を果たしてはいます。

従来、製図板を使って作成した図面では、線の描き方、数字の書き方を見れば、その人間の能力がほぼ判断でき、この程度の線の描き方の技術者ならば間違いの内容、箇所、程度等が予測可能であって、チェック業務も比較的容易であった。

ところがCADによる図面では、線の描き方、数字の書き方はほぼ同じであるため、能力のある技術者の図面も初心者の図面も一見の出来映えは大差なく、積算業務に入ってから寸法等の矛盾に気がついて再度図面作成へ、いわば図面作成と積算業務のキャッチボールの頻繁が製図板時代に比較し、増加したといった欠点も発生しています。

製図板（ドラフター）派でパソコンやCADになかなか馴染めない年齢の人間側からすれば、技術者の能力と感情が表現できない、いわゆる温かみのないパソコンやCADによる図面の作成によって本当に業務の合理化が図られているのかと疑問を投げかけたい思いがします。

一時代の売れっ子であった製図板が部屋の隅に追いやられ、また荷物置き場となり、いわば窓際族の一員となった製図板の嘆きが私自身におきかえると身につまされる思いさえします。

最近のキャンプ場

飛騨方面では景色や通り行く人にやがて来る冬の気配を感じさせる時期になりました。

先日この方面でキャンプ場の補償を担当する機会を与えられました。ここ数年のアウトドアブームで、あちこちのキャンプ場はずいぶん賑わっていますが、利用客のマナー低下も浮彫りになっています。むかしとは違い、国道沿いでサイト付近まで自動車の乗り入れができ、水洗トイレやシャワー設備まで完備しているオートキャンプ場が多いことに驚いています。

便利で設備の整ったキャンプ場に飽きた方、"満天の星""川のせせらぎ""鳥の鳴き声""虫の音"時には"野生の動物"と遭遇できるキャンプ場もいいものですよ。